

心得ごとく又羽うひてたまふ可尋とのこハ知ぐと云ふ
めや君侯の考へ給ふハ羽うひてたまふハ舊れそれ事
よや強くいと鷹めち本草ゆもどると云ふありされバ
それる鷹もて及ハそれ初のもよ戻^モるものゆてその始は
待とるべき事とぞて及ハゆぬものや又舊れを茂と
ゆる本の間はそれる鷹も羽うひてハ本草ゆもどとむぐぬ
ぬをうりくと又て及ハゆてを同ドと云ハあの陸はあるや云
事うとて鑑余の里いつちも不審や又此の古の部に
へものうと候と云詞りてへう塙本ゆ初句をとめさハゆと
此鳥屋際めバ今も鷹多くてよ入安と東北乃園をぞ